

**令和4年度市町村災害廃棄物処理計画
策定支援事業業務**

報 告 書

令和5年3月

環境省北海道地方環境事務所

目 次

| | |
|----------------------------|----|
| 1. 業務概要 | 1 |
| 1.1 業務名 | 1 |
| 1.2 業務の目的 | 1 |
| 1.3 履行期間 | 1 |
| 1.4 受託者 | 1 |
| 1.5 業務内容 | 2 |
| 1.6 業務の対象 | 3 |
| 1.7 業務のフロー | 4 |
| 2. 災害廃棄物処理計画策定勉強会の開催 | 5 |
| 2.1 実施の概要 | 5 |
| 2.2 実施内容 | 6 |
| 2.3 演習（意見交換会）について | 7 |
| 2.4 アンケートの実施 | 8 |
| 3. 災害廃棄物処理計画骨子案の作成支援 | 11 |
| 3.1 疑義照会での支援 | 11 |
| 3.2 Push 型支援 | 12 |
| 4. 留意事項 | 20 |
| 4.1 会場の選定 | 20 |
| 4.2 運営 | 20 |
| 4.3 リモート開催について | 21 |
| 5. 業務報告書の作成 | 22 |

資料編

資料 1 勉強会資料（紋別市開催）

資料 2 勉強会に関するアンケート

1. 業務概要

1.1 業務名

令和4年度市町村災害廃棄物処理計画策定支援事業業務

1.2 業務の目的

平成30年には胆振東部地震が発生し、その後も、全国で大規模な地震及び大雨災害が発生している。また、令和4年3月22日には内閣府の「日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震モデル検討会」が最終報告を公表し、道内の津波の高さは最大で26mを超える場所が想定されているところである。これまでの経験から、大規模な災害が発生した際の廃棄物処理には、市町村が予め災害廃棄物処理計画を策定し、発災時の対応手順や処理方法を定めておくことが重要であることが知られているが、道内市町村の計画策定率は、令和3年度末で24.6%と依然として低い。

災害廃棄物処理計画の策定には、発災時の廃棄物発生量の推計や仮置場の必要面積の算出など一定の知識が必要であり、北海道地方環境事務所では、策定の補助として「市町村災害廃棄物処理計画策定ワークシート」などを作成し支援しているが、策定着手に躊躇している小規模市町村も多い状況である。

本事業は、計画未策定の市町村に計画策定の重要性を認知してもらい、計画策定に必要な災害廃棄物処理の基礎を習得してもらうこと、また、計画を策定する意思はあるものの策定の進まない市町村を強力にバックアップし、道内の計画策定率を向上させることを目的とする。

1.3 履行期間

令和4年9月13日～令和5年3月15日

1.4 受託者

アジア航測株式会社 札幌営業所

〒064-0952 札幌市中央区宮の森2条1丁目7番2号宮の森KLビル

Tel:011-214-0770 FAX:011-613-7618

1.5 業務内容

本業務の内容を表 1-1 に示す。

表 1-1 業務内容

| 業務項目 | 概要 | 仕様書項目 |
|---------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|
| 1 勉強会の開催 | <p>対象者に対し、災害廃棄物処理計画の有効性についての講義、災害廃棄物処理に携わった方による講演、及び初動に関する図上演習を、4つの市町村で各1回（5時間以上）、合計4回開催した。また、勉強会の資料には、胆振東部地震を筆頭に、令和2年度九州豪雨災害や令和4年3月17日発生 of 福島地震に係る災害状況の写真を提示し、処理計画策定の重要性の啓発に用いた。図上演習では班分けした各グループにファシリテーター1名程度を配置し、実施した。リモートでの参加者に対しては必要な支援や接続サポートを行った。</p> | 2. (1) |
| 2 災害廃棄物処理計画骨子案の作成支援 | <p>支援を希望する自治体に対し、計画策定の進捗状況を確認した。また、計画策定の進捗がある程度進んでいる自治体に対しては疑義照会・回答の形式で骨子案策定の支援を行い、計画策定の進捗が進んでいない、または策定に必要な知識の理解度が低い市町村に対しては、ワークシートを用いて、市町村地域防災計画での被害想定の確認、通常の処理施設の能力の確認、必要な協力体制（受援）についての提言、仮置場設置場所の提案、組織体制の確認、骨子案の提案をするなど、請負者主導による強力な支援（以下、「Push型支援」。）を行った。</p> | 2. (2) |
| 3 留意事項 | <p>勉強会の開催日程については、各自治体等の参加者名及び連絡手段、日程都合の聴取と取りまとめを行い、開催日を担当官と協議するとともに、日程・会場の案内を送付した。また、新型コロナウイルス感染防止の観点から、ソーシャルディスタンス確保とリモート開催に配慮し、参加人数の2～3倍を収容できる広さを持ち、安定したWEB会議を行うため、複数台のポケットWi-fiを持参・使用した。</p> <p>また、会場ではマスクの着用、手指の消毒、ソーシャルディスタンスの確保等の基本的対策の他、「北海道スタイル」を遵守して業務を遂行した。</p> | 3 |

| | | |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| | <p>勉強会への参加は対面参加及びリモート参加を可能としたハイブリット形式で実施し、リモート参加する自治体に対しては、リモート参加であっても対面参加と同程度の知識習得ができるようにすることや、その他、自治体への接続サポートなど、リモート参加に際して必要となるすべてを行う体制を整備した。</p> | |
| 4 業務報告書の作成 | <p>本事業で実施した業務の概要、過程、結果等を取りまとめた業務報告書（A 4判 100 頁程度）、概要版（A 4判 10 頁程度）及び要約版（A 4判 2 頁程度）を各 265 部作成するとともに、別途指示された関係機関（道内市町村、一部事務組合、廃棄物処理広域連合、自治体以外の協議会構成員等、約 255 カ所）に送付した。報告書については、北海道地方環境事務所及び情報提供者が指定した要機密情報が掲載されないよう細心の注意を払い、様式やまとめ方はできるだけ平易な言葉を用いるなど、第三者に分かりやすいものとなるよう留意した。また、報告書（概要版等含む）は、北海道地方環境事務所のホームページに掲載することを前提に作成し、さらに、別途開催した北海道ブロック協議会に出席し、業務の成果や明らかになった概要、課題について発表を行った。</p> | 6 |

1.6 業務の対象

全道の市町村の災害廃棄物処理等の担当者を業務の対象とした。

1.7 業務のフロー

本業務のフローを図 1-1 に示す。

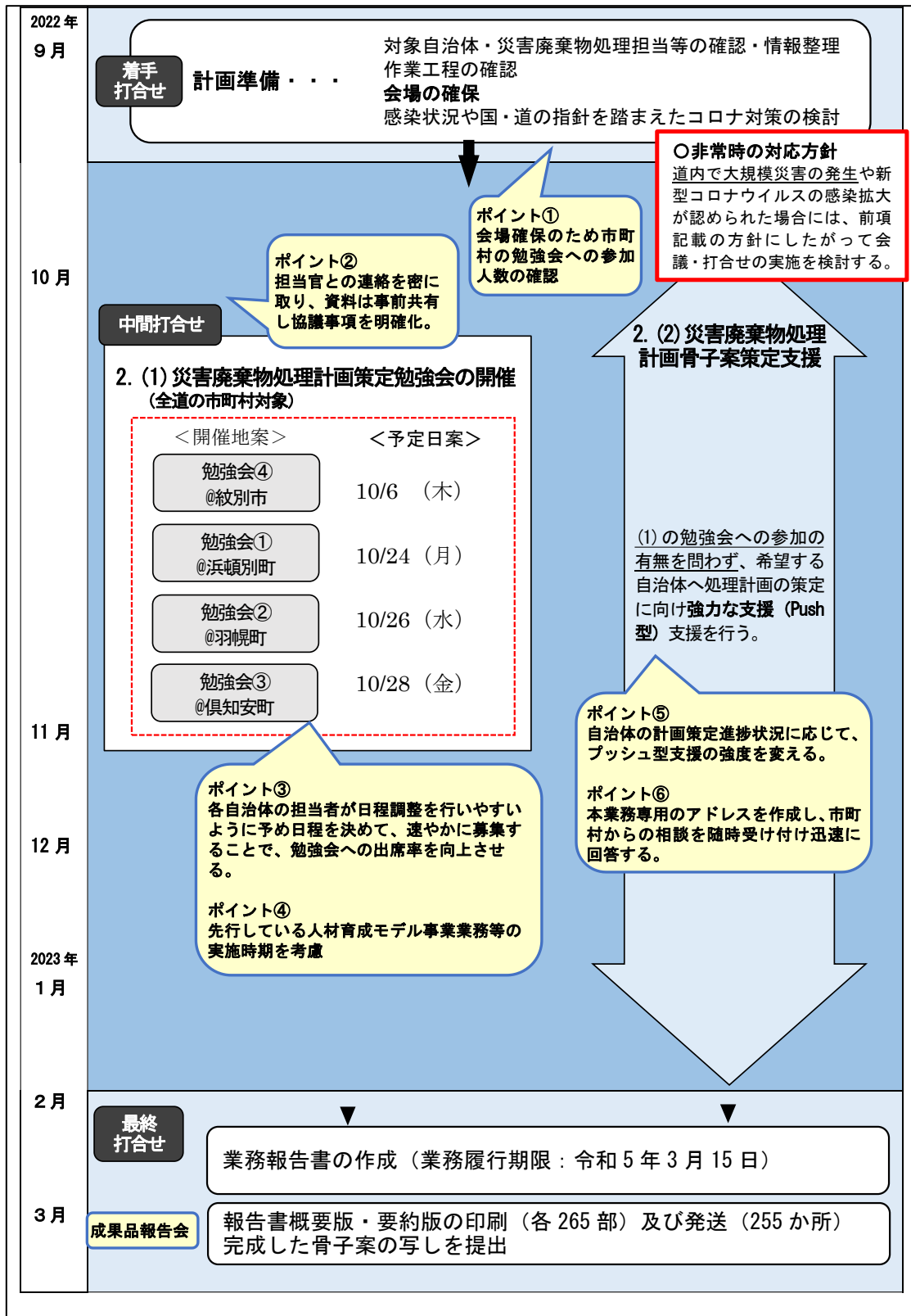


図 1-1 業務のフロー

2. 災害廃棄物処理計画策定勉強会の開催

2.1 実施の概要

全道の自治体担当者を対象に、災害廃棄物処理計画の有効性についての講義、災害廃棄物処理に携わった方による講演、及び初動に関する図上演習に関する勉強会を、紋別市、浜頓別町、羽幌町、倶知安町でそれぞれ1回、合計4回開催した。

表 2-1 に勉強会の開催概要を示す。なお、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止等のため、対面・リモートを併用する形で実施した。

表 2-1 勉強会の開催概要

| 自治体 | 開催日時 | 開催場所 | 参加者 |
|------|---------------------------|-------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 紋別市 | 令和4年10月7日 10:00～16:00 | 紋別市立博物館 郷土学習室 | 紋別市、遠軽町、滝上町、興部町 (4市町村) オホーツク総合振興局 北海道地方環境事務所 アジア航測(株) |
| 浜頓別町 | 令和4年10月24日 10:00～16:00 | 浜頓別交流館 多目的ルーム | 浜頓別町(1市町村) 北海道地方環境事務所 アジア航測(株) |
| 羽幌町 | 令和4年10月26日 10:00～16:00 | 羽幌町中央公民館 第1研修室 | 豊頃町、様似町、平取町、 小平町、天塩町、苫前町、留萌市 (7市町村) 羽幌町外2町村衛生施設組合 (1組合) 留萌振興局 北海道地方環境事務所 アジア航測(株) |
| 倶知安町 | 令和4年10月28日 10:00～16:00 | 倶知安町中小企業セ ンター 研修室 | 黒松内町、蘭越町、倶知安町、 積丹町、仁木町、余市町、 真狩村、京極町、留寿都村、 赤井川村、寿都町、浜頓別町、 利尻町、利尻富士町、釧路町、 釧路市、岩見沢市(17市町村) 利尻郡清掃施設組合(1組合) 北海道地方環境事務所 アジア航測(株) |

2.2 実施内容

表 2-2 に勉強会の主な内容を示す。また、配布した説明資料のうち、代表として紋別市で開催したものを資料編に整理した。

災害廃棄物処理に係る経験を有する講師による講演では、平成 23 年に発災した東日本大震災や紀伊半島豪雨で発災時に、陸上自衛隊第 4 施設団第 7 施設群長として災害廃棄物処理に従事されていた奈良県総務部知事公室防災統括室参事の米津浩幸氏を講師とし、当時の被災状況、災害廃棄物処理に係る業務について、羽幌町での開催では講演、質疑、ディスカッションを行い、紋別市、浜頓別町、倶知安町での開催では、事前に取材した動画を放映した。

表 2-2 勉強会の主な内容

| 主な内容 | |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. | 災害廃棄物処理計画の有効性についての講義 <ul style="list-style-type: none">・ 災害廃棄物処理計画とは・ 近年の災害の特徴・ 災害廃棄物処理計画策定の目的・ ワークシートについて |
| 2. | 災害廃棄物処理に従事された方によるご講演 <講師：米津浩幸氏> <ul style="list-style-type: none">・ 発災直後から現場へ行かれるまでの経緯・ 担当地域の自治体担当者との連絡体制等について・ 災害廃棄物処理のご様子・ ボランティアの方々との協働について・ 質疑、ディスカッション |
| 3. | 初動に関する図上演習 <ul style="list-style-type: none">・ 話題提供（仮置場について）・ 演習 1：【テーマ 1】災害廃棄物発生量、仮置場面積の概算・ 演習 2：【テーマ 2】一次仮置場の選定・ 意見交換会：【テーマ 3】仮置場設置のために平時に準備する事項 |
| 4. | 質疑応答 |

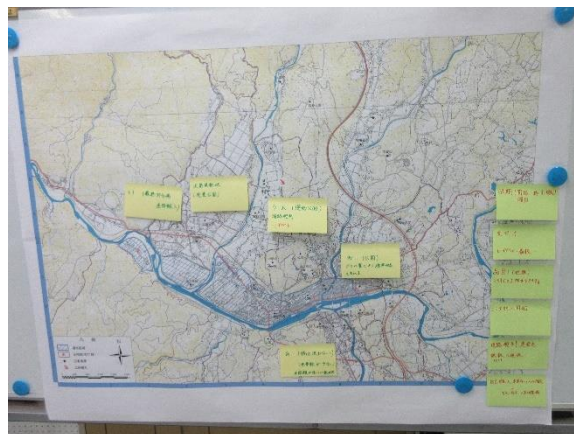


2.3 演習（意見交換会）について

演習は、班分け後、各班にファシリテーターを1名配置することで円滑に意見交換ができるようにした。以下、表 2-3 に、参加者から出された仮置場設置のための平時の準備についての主な意見と、そこから抽出された処理計画に記載すべき事項について示す。

表 2-3 演習結果

| 仮置場設置のための平時の準備についての主な意見 | | 主な意見から抽出した処理計画に記載すべき事項 |
|-------------------------|----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 仮置場の選定 | 仮置場の優先順位付け | <ul style="list-style-type: none"> 仮置場のリスト 仮置場の詳細 仮置場への搬入排出経路 他部署との連携体制の構築 災害廃棄物発生量の概算 仮置場のレイアウト |
| | 搬出経路の確認・確保 | |
| | 仮置場設置個所との協定の締結 | |
| | 公有地・民地の確認 | |
| | 防災部門とのすり合わせ | |
| | 土壌・面積・状況の調査 | |
| 仮置場開設 | 搬入方法等の確認 | <ul style="list-style-type: none"> 住民への周知方法 資材、機材の設置方法 |
| | 資材・機材の確保 | |
| | 人員配置の確認 | |
| | 住民への周知 | |
| | レイアウトの検討 | |
| 仮置場の運営 | 運営人員の確保 | |
| | 他部署との連携 | |
| | 重機・資材の確保 | |
| | 交通整理 | |
| | ゴミ分別看板の設置 | |
| | ごみ収集業者との協議 | |



2.4 アンケートの実施

勉強会終了時に、出席者に対して勉強会に関するアンケートを実施した。なお、配布したアンケート用紙は資料編に整理した。アンケートの集計結果を表 2-4、図 2-1～図 2-3 に示す。

今回の勉強会を通じて、災害廃棄物処理計画骨子案策定事業への参加を希望したい・上長と相談して決めるという回答が9割以上に達し、また、これら参加を希望する自治体の8割以上が災害廃棄物処理計画骨子案を今年度または次年度に策定したいと回答した。

また、これまでに計画策定ができなかった理由として、「通常業務が忙しい」と回答した自治体が6割弱に達した。

さらに知りたい内容・項目としては、「補助金申請」、「ボランティア等の支援体制」、「仮置場の選定」が多く挙げられた。

今後行ってほしい支援としては「災害廃棄物処理に係る演習・訓練」が最も多く挙げられた。

表 2-4 アンケート集計結果

| | 参加したい | 上長と相談して決める | 参加しない | | | | | | |
|----------------------------------------------|--------------------------|-----------------|-------------|----------------|--------------|-------------------------|-------|-------------|------|
| ① 災害廃棄物処理計画骨子案策定事業への参加希望をお聞かせください。 | 6 | 5 | 1 | | | | | | |
| | 今年度 | 次年度 | 上記以外 | | | | | | |
| ② 参加したいと答えた自治体様にご回答ください。いつ頃までに策定したいと考えていますか。 | 4 | 5 | 0 | | | | | | |
| | 通常業務が忙しい | 計画策定の必要性を感じない | 今後作成する予定である | 地域防災計画の改定予定がある | 上記以外 | | | | |
| ③ 参加しないと答えた自治体様にご回答ください。参加しない理由をお教えてください。 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | | | | |
| | 通常業務が忙しい | ワークシートの作成方法が難しい | 予算措置がない | 周辺自治体の動向 | 災害の危険性を感じない | 上記以外 | | | |
| ④ これまでに計画策定に至らなかった理由をお聞かせください。 | 10 | 3 | 1 | 3 | 0 | 1 | | | |
| | 災害廃棄物量の推計 | 水災害想定 | 仮置き場の選定 | 仮置き場の運営（管理） | ボランティア等の支援体制 | 要支援者への対応（外国籍住民等への対応を含む） | 補助金申請 | 各種協定締結に係る事項 | 上記以外 |
| ⑤ さらに知りたい内容・項目をお聞かせください。 | 3 | 2 | 4 | 2 | 4 | 1 | 5 | 2 | 1 |
| | 処理計画（策定含む）に係る内容に関する講義・講演 | 災害廃棄物処理に係る演習・訓練 | 連携体制構築に係る支援 | 上記以外 | | | | | |
| ⑥ 今後行ってほしい支援をお聞かせください | 4 | 6 | 4 | 1 | | | | | |

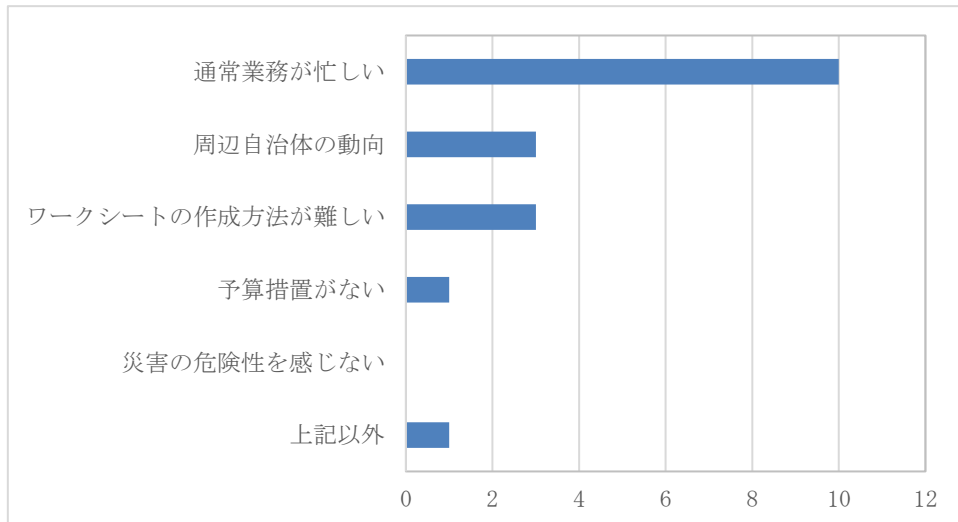


図 2-1 これまで計画策定ができなかった理由

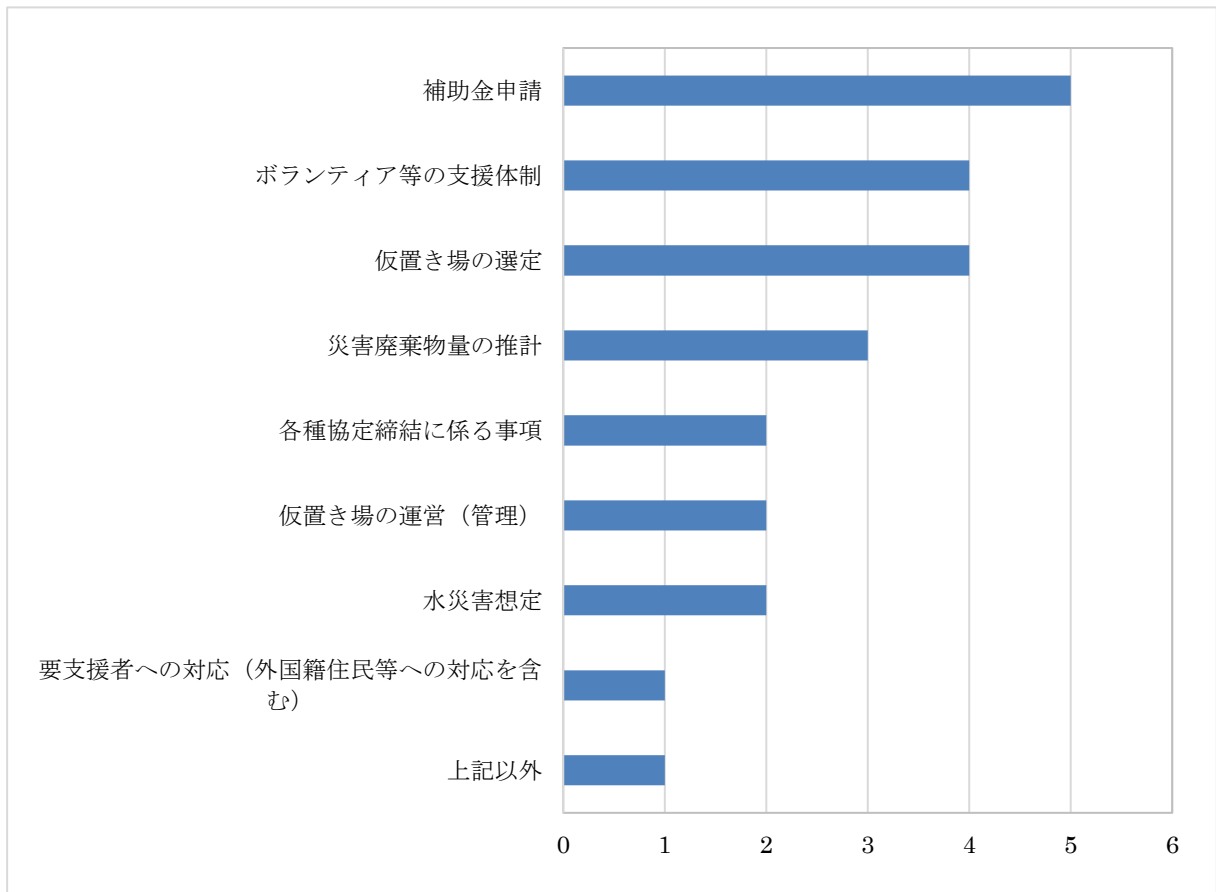


図 2-2 災害廃棄物処理に関するさらに知りたい内容・項目

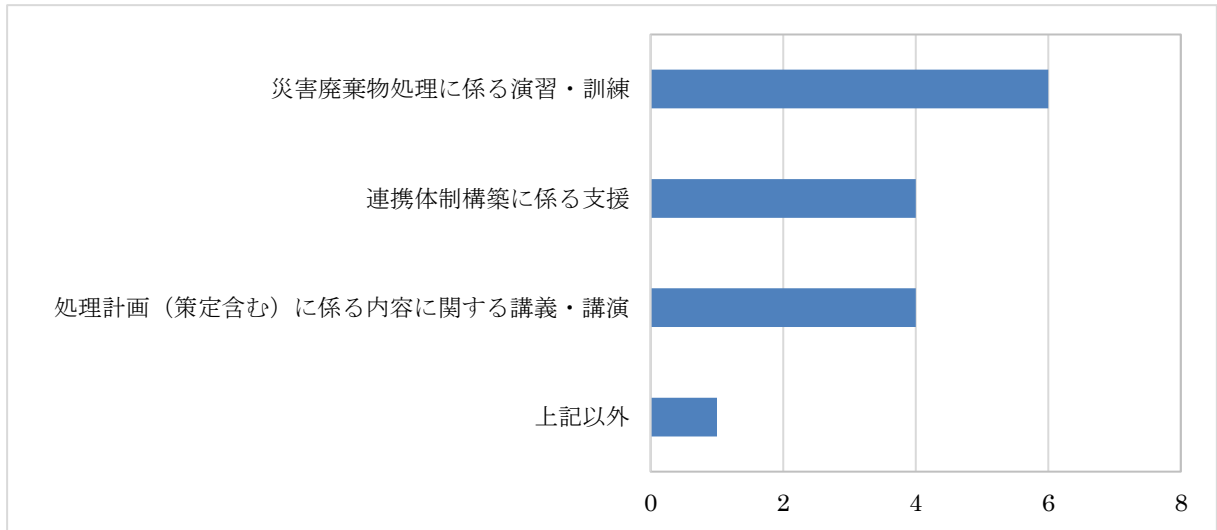


図 2-3 今後行ってほしい災害廃棄物処理に係る支援

3. 災害廃棄物処理計画骨子案の作成支援

3.1 疑義照会での支援

骨子（案）策定の支援として、自治体からの相談を電子メール等により随時受け付け、常時疑義照会を行う体制を整備した。相談対応件数を表 3-1 に示す。

表 3-1 相談対応件数

| 振興局エリア | 相談対応 |
|--------|-------|
| 後志 | 1 自治体 |
| 宗谷 | 2 自治体 |
| 計 | 3 自治体 |

また、現地等での確認が必要な自治体に対しては、自治体へ訪問し対面による支援を行った。対面による支援を行った自治体を表 3-2 に示す。

表 3-2 対面による支援

| 振興局エリア | 対面による支援 | 自治体名 |
|--------|---------|-------------|
| 空知 | 2 自治体 | 滝川市※、由仁町 |
| 上川 | 2 自治体 | 名寄市、南富良野町 |
| 十勝 | 3 自治体 | 帯広市、更別村、浦幌町 |
| 釧路 | 1 自治体 | 釧路市 |
| 留萌 | 1 自治体 | 留萌市 |
| 計 | 9 自治体 | |

※滝川市は2回にわたり対面による支援を実施。

3.2 Push 型支援

計画策定の進捗が進んでいない、または策定に必要な知識の理解度が低い市町村に対しては、Push 型支援を行った。Push 型支援件数を表 3-3 に示す。

表 3-3 Push 型支援件数

| 振興局エリア | Push 型支援 |
|--------|----------|
| 後志 | 2 自治体 |
| 留萌 | 2 自治体 |
| 宗谷 | 2 自治体 |
| オホーツク | 1 自治体 |
| 計 | 7 自治体 |

なお、相談対応、Push 型支援を行った自治体を含め、50 自治体程度の処理計画骨子案を作成した。

Push 型支援においては、以下、(1) ～ (9) の考え方をを用いて作成した。

(1) 対象とする災害

各自治体の地域防災計画等で想定している災害を記入する（表 3-4）。

表 3-4 想定する災害（地震）の記入例

| 項目 | | 内容 |
|--------|--------|-----------------|
| 想定地震 | | ●●地震 |
| 最大震度 | | 6弱以上 |
| 建物被害 | 全壊 | 32棟 |
| | 半壊 | 187棟 |
| | 床上浸水 | 0世帯 |
| | 床下浸水 | 0世帯 |
| | 焼失：木造 | 0棟 |
| | 焼失：非木造 | 0棟 |
| 津波浸水面積 | | 0m ² |
| 避難者数 | | 115人 |

(2) 民間事業者との連携

災害廃棄物の処理に関連する民間事業者との協定等について記入する（表 3-5）。

表 3-5 民間事業者との災害時応援協定の記入例

| 締結日 | 協定名称 | 締結先 | 協定の概要 |
|--------|-----------------------------------|----------------|-------------------------|
| H●.●.● | 災害時協力協定 | ●●協会 | 災害時の電気設備の安全点検・検査等に関する協会 |
| H●.●.● | 災害時の発生時における●●協議会の応急・復旧活動の支援に関する協定 | ●●協議会 | 災害時の応急復旧活動等 |
| H●.●.● | 災害時等における石油類燃料の供給等に関する協定 | ●●地方石油業協同組合 | 災害時の石油燃料の提供等 |
| H●.●.● | 災害時等における輸送業務に関する協定 | ●●地区トラック協会●●支部 | 災害時の物資輸送協力 |
| H●.●.● | 災害時におけるレンタル機材の供給に関する協定 | 株式会社●● | 災害時の機器等の提供 |

(3) 災害廃棄物発生量の推計

災害廃棄物発生量は、災害廃棄物対策指針に基づき、建物被害数に1棟当たりの発生原単位（ワークシートに示す）を掛け合わせるにより算出する（図 3-1）。さらに、災害廃棄物の種類別発生割合（ワークシートに示す）を掛け合わせるにより、可燃物、不燃物、コンクリートがら、金属、柱角材等の発生量を算出する（表 3-6）。

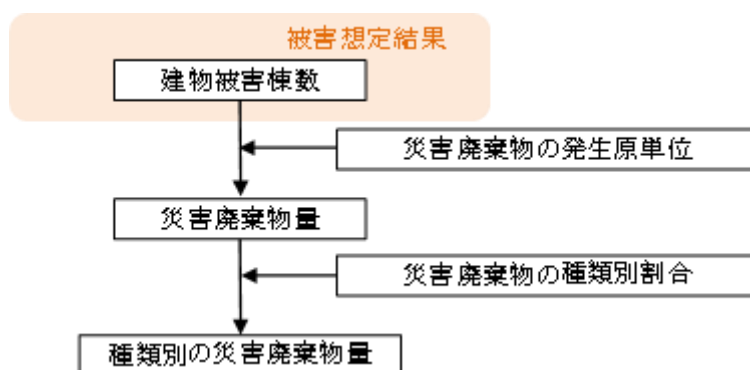


図 3-1 災害廃棄物に関する算出の流れ

表 3-6 種類別の災害廃棄物発生量（地震）の記入例

| | 災害廃棄物発生量 (t) | | | | | | | |
|------|--------------|-------|--------------|-----|-----|--------------|-----|-------|
| | 可燃物 | 不燃物 | コンクリート がら | 金属 | 柱角材 | 津波堆積 物・土砂 | その他 | 合計 |
| ●●地震 | 1,448 | 1,448 | 4.183 | 531 | 434 | 0 | 0 | 8,045 |

(4) 避難所ごみ発生量の推計

避難所ごみ発生量は、避難者数に発生原単位を掛け合わせて算出する（表 3-7）。避難所ごみ発生量の推算方法を表 3-8 に示す。

表 3-7 避難所ごみの発生量推計の記入例

| | 避難者数 | 原単位 | 発生量 |
|------|------|-----------|--------|
| ●●地震 | 115人 | 978 g/人・日 | 0.1t/日 |

表 3-8 避難所ごみ発生量の推計方法

$$\text{避難所ごみ発生量 (g/日)} = \text{避難者数(人)} \times \text{発生原単位(g/人・日)}$$

※発生原単位は、市町村の収集実績に基づき設定する。

出典：北海道災害廃棄物処理計画（平成 30 年 3 月）北海道【資料編】 p. 2-5

(5) し尿発生量・仮設トイレ必要数の推計

仮設トイレは、避難所における避難者数及び断水によって家庭のトイレが使用できなくなった住民が使用すると、必要数の推計を行う（表 3-9～表 3-11）。

表 3-9 し尿の発生量推計の記入例

| | 避難者数 | 断水による仮設トイレ必要人数 | し尿原単位 | 仮設トイレし尿発生量 |
|------|------|----------------|----------|------------|
| ●●地震 | 115人 | 6,696人 | 1.7L/人・日 | 11,579L/日 |

表 3-10 仮設トイレの必要数の記入例

| | 仮設トイレし尿発生量 | 収集頻度 | 仮設トイレの便槽容量 | 必要数 |
|------|------------|-------|------------|-----|
| ●●地震 | 11,579L/日 | 3日/1回 | 約400L/基 | 87基 |

表 3-11 仮設トイレの必要数の推計方法

| | |
|----------------|--------------------------------------------------------------------------------|
| 避難者数 | 避難所へ避難する住民数 |
| 断水による仮設トイレ必要人数 | 断水による仮設トイレ必要人数 = {水洗化人口－避難者数×(水洗化人口/総人口)} ×上水道支障率×1/2 |
| 仮設トイレ必要人数 | 仮設トイレ必要人数 =避難者数+断水による仮設トイレ必要人数 |
| 仮設トイレ必要設置数 | 仮設トイレ必要設置数 =仮設トイレ必要人数/仮設トイレ設置目安 仮設トイレ設置目安 =仮設トイレの容量/し尿の1人1日平均排出量/収集計画 |
| 仮設トイレの平均的容量 | 400L |
| し尿の1人1日平均排出量 | 1.7L/人・日 |
| 収集計画 | 3日に1回の収集 |

出典：災害廃棄物対策指針【技 14-3】（令和2年3月）一部修正・加筆

(6) 仮置場必要面積の推計

仮置場必要面積は、1年程度で災害廃棄物を集積し、同時に3年程度で処理を行うとして最大必要になる面積の推計を行う（表3-12、表3-13）。

表 3-12 仮置場必要面積の記入例

| | 仮置量 (t) | 仮置場必要面積 | |
|------|---------|---------|------|
| | | (㎡) | (ha) |
| ●●地震 | 5,363 | 2,749 | 0.27 |

表 3-13 仮置場必要面積の推計方法

<仮置場必要面積の算定方法>

$$\text{必要面積} = \text{集積量(t)} \div \text{見かけ比重(t/m}^3\text{)} \div \text{積み上げ高さ(m)} \times (1 + \text{作業スペース})$$

集積量 = 災害廃棄物の発生量(発災前は推計量) - 年間処理量

年間処理量 = 災害廃棄物の発生量 ÷ 処理期間(発災前推計の場合は3年)

見かけ比重 : 可燃物 0.4(t/m³)、不燃物 1.1(t/m³)、津波堆積物 1.1(t/m³)

積み上げ高さ : 5m以下が望ましい

処理期間 : 3年未満が望ましい

作業スペース割合 : 0.8~1 が望ましい

出典：北海道災害廃棄物処理計画（平成30年3月）北海道【資料編】p.2-5

(7) 焼却施設の処理可能量の推計

焼却施設の処理可能量は、表 3-15 に示される災害廃棄物対策指針の方法、及び同指針で参考記載されている表 3-16 に示す施設の余力を最大限活用する方法の 2 種類により算出する(表 3-14)。

表 3-14 一般廃棄物焼却施設の処理可能量推計結果の記入例

| 施設名称 | 処理能力 (t/日) | 年間処理量 (実績) (t/年度) | 年間処理能力 (t/年) | 年間処理能力-実績 (t/年) | 処理可能量(t/2.7年) | | | |
|------|------------|-------------------|--------------|-----------------|---------------|----|-------|--------------|
| | | | | | 災害廃棄物対策指針 | | | 公称能力 最大活用 |
| | | | | | 低位 | 中位 | 高位 | |
| ◆◆ | 62 | 11,830 | 18,600 | 6,770 | - | - | 6,300 | 18,200 |
| | | | | | - | - | 3,100 | 9,100 |

※処理可能量の上段は施設全体、下段は広域処理の場合の通常の当該自治体の割合で配分した値とする。

表 3-15 一般廃棄物焼却施設の処理可能量の試算条件 (災害廃棄物対策指針)

| | 低位シナリオ | 中位シナリオ | 高位シナリオ |
|-------------------------|----------------|---------------|---------------|
| ①稼働年数 | 20年超の施設を除外 | 30年超の施設を除外 | 制約なし |
| ②処理能力 (公称能力) | 100t/日未満の施設を除外 | 50t/日未満の施設を除外 | 30t/日未満の施設を除外 |
| ③処理能力 (公称能力) に対する余裕分の割合 | 20%未満の施設を除外 | 10%未満の施設を除外 | 制約なし※ |
| ④年間処理量の実績に対する分担率 | 最大で5% | 最大で10% | 最大で20% |

※処理能力に対する余裕分がゼロの場合は受入れ対象から外す。

出典：災害廃棄物対策指針【技 14-4】(平成 31 年 4 月) 一部修正・加筆

表 3-16 一般廃棄物焼却施設の処理可能量の試算条件 (施設の余力を最大限活用する方法)

| | |
|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 処理可能量 | 処理可能量 (t) = 年間処理能力 (t/年) - 年間処理量 (実績) (t/年度) ※大規模災害を想定し、3年間処理した場合の処理可能量 (t/3年) についても算出する。ただし、事前調整等を考慮し実稼働期間は 2.7年とする。 |
| 年間処理能力 | 年間最大稼働日数 (日/年) × 処理能力 (t/日) |
| 年間最大稼働日数 | 300日程度 |

(8) 最終処分場の処理可能量の推計

最終処分場の処理可能量は、表 3-18 に示す災害廃棄物対策指針の方法、及び同指針で参考記載されている表 3-19 に示す 10 年後残余容量を処理可能量とする方法の 2 種類により算出する（表 3-17）。

表 3-17 一般廃棄物最終処分場の処理可能量推計結果の記入例

| 施設名称 | 埋立量 (m ³ /年度) | 残余容量 (m ³) | 10 年後 残余容量 (m ³) | 処理可能量(t/2.7 年) | | | |
|------|-----------------------------|---------------------------|------------------------------------|----------------|-----|-----|-------------------|
| | | | | 災害廃棄物対策指針 | | | 残余容量- 10 年分埋立量 |
| | | | | 低位 | 中位 | 高位 | |
| ■ ■ | 1,808 | 19,070 | 990 | 100 | 300 | 600 | 900 |
| | | | | - | - | - | - |

※処分可能量の上段は施設全体、下段は広域処理の場合の通常の本町の割合で配分した値とする。

表 3-18 一般廃棄物最終処分場の処理可能量の試算条件（災害廃棄物対策指針）

| | 低位シナリオ | 中位シナリオ | 高位シナリオ |
|--------------------|--------------|---------|---------|
| ①残余年数 | 10 年未満の施設を除外 | | |
| ②年間埋立処分量の実績に対する分担率 | 最大で 10% | 最大で 20% | 最大で 40% |

出典：災害廃棄物対策指針【技 14-4】（平成 31 年 4 月）p.5

表 3-19 一般廃棄物最終処分場の余力の試算条件

| | |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 処理可能量 | 処理可能量 (t) = (残余容量 (m ³) - 年間埋立処分量 (実績) (m ³ /年度) × 10 年) × 1.5 (t/m ³) ※災害が直ちに発生するとは限らないこと、最終処分場の新設に数年を要することから、10 年間の生活ごみ埋立量を残余容量から差引いた値とする。 |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

(9) 処理フロー

災害廃棄物発生量及び処理可能量の算出結果を基にして災害廃棄物処理フローを作成する。処理可能量は複数の手法で算出していることから、表 3-20 に示す 2 つの方法を採用し、図 3-2 のような処理フローを作成する。

表 3-20 処理フローの作成において採用した算出方法

| | 算出方法 | | | |
|-------|-----------|----|--------|-------------------------|
| 焼却施設 | 災害廃棄物対策指針 | | | 公称能力 フル稼働 (B) |
| | 低位 | 中位 | 高位 (A) | |
| 最終処分場 | 災害廃棄物対策指針 | | | 残余容量-10 年分埋立量 (D) |
| | 高位 | 中位 | 高位 (C) | |

□：処理フローの作成において採用 ※括弧内のアルファベット A～D は、処理フロー図中の記号に対応

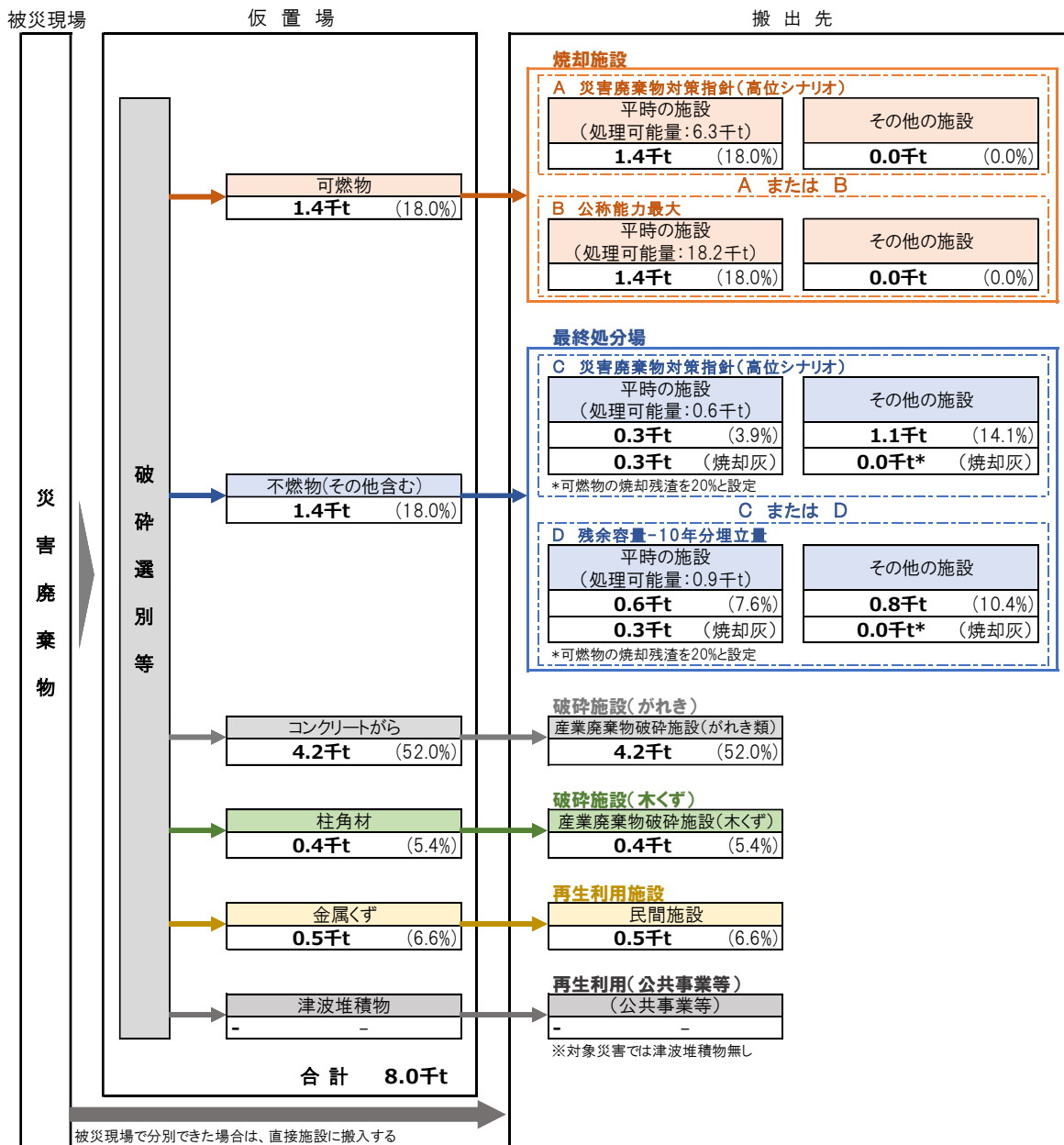


図 3-2 災害廃棄物処理フロー (●●地震) の記入例

4. 留意事項

4.1 会場の選定

勉強会を開催するにあたり、新型コロナ感染防止対策を含め、十分なソーシャルディスタンスが確保できる、参加予定者の倍の人数を収容可能な会場を確保した。

4.2 運営

運営に当たっては、新型コロナ感染防止対策として、出席者同士の間隔を十分開けるように椅子机等を配置するとともに、換気、マイクカバーの使用、意見交換会時のフェイスシールド着用などの配慮を行った。このほか図 4-1 に示すパワーポイントを作成し、開会前、休憩時間中に掲示した。



図 4-1 「新型コロナウイルス感染防止のためのお願い」の掲示用パワーポイント資料

4.3 リモート開催について

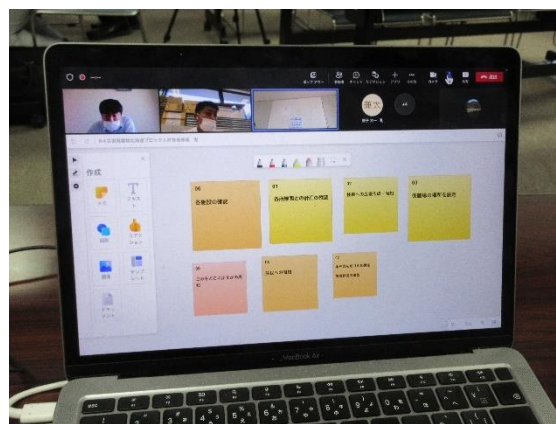
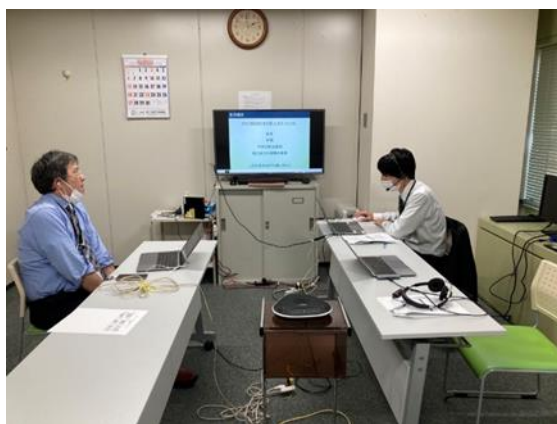
新型コロナウイルス感染症等を理由として、勉強会への対面参加が困難な自治体に対し、リモート開通試験や操作方法の説明を行った。また、希望する参加者にリモート用の機器（図 4-2）の貸し出しを行った。このほか、リモート専用 PC を用意し、意見交換会にも参加できるよう配慮した。

また、ネット回線のトラブル等により、リモート接続が途切れないように、運営側は複数のアカウントおよび複数のネット回線を使用して実施した。



図 4-2 貸し出し用機材（タブレット端末及び WiFi ルータ）

また、リモートで参加する自治体に対し、要望に応じて動画・音声設備環境の確認や基本操作方法の他、チャット機能の利用方法等の操作説明を行った。



5. 業務報告書の作成

以下の成果品を作成し、関係機関 256 箇所へ送付した。

報告書 100 頁程度、265 部（A 4 版）

報告書 概要版（Microsoft 社 PowerPoint）10 頁程度、265 部（A 4 版）

報告書 要約版（Microsoft 社 PowerPoint）12 頁程度、265 部（A 4 版）

報告書及び概要版の電子データを収納した電子媒体（DVD-R）8 式

また、令和 5 年 2 月 22 日に開催されたブロック協議会において、本事業の実施結果とし報告を行った（表 5-1）。

表 5-1 ブロック協議会議開催概要

| 開催日時 | 開催場所 |
|--------------------------------|---------------------------------------|
| 令和 5 年 2 月 22 日 10:00～12:00 | 北海道中小企業会館 オンライン併用（Microsoft Teams） |